

8. アンケート

Questionnaire

【1】 教職員対象アンケート

1. 【本学教職員対象】弘前大学COC事業に関するアンケートについて 回答結果

【実施期間】 平成27年4月15日(水)～平成27年4月30日(木)

【対象】 弘前大学教員619名・職員288名 計907名

(いずれも非常勤職員を除く)※附属病院・附属学校教職員は対象外

【回答者数】 教員320名 職員259名 計579名

【質問1】 身分をお答えください。

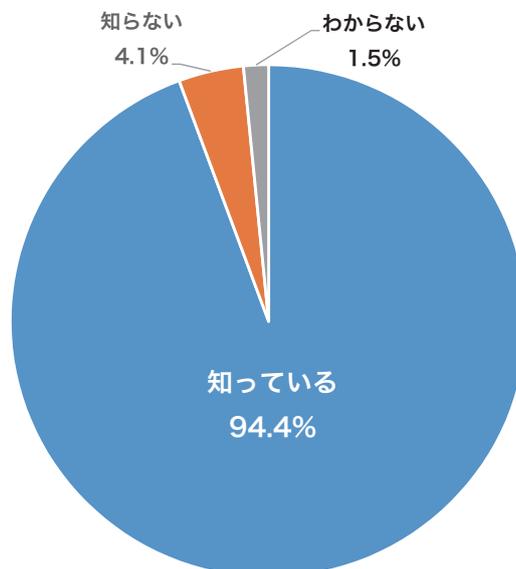
身分	対象者数	回答者数	割合
教員(非常勤を除く)	619	320	51.7%
教員以外の職員(非常勤を除く)	288	259	89.9%
合計	907	579	63.8%

【質問2】 弘前大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

■ 教員

選択肢	回答数	割合
知っている	302	94.4%
知らない	13	4.1%
わからない	5	1.5%
合計	320	

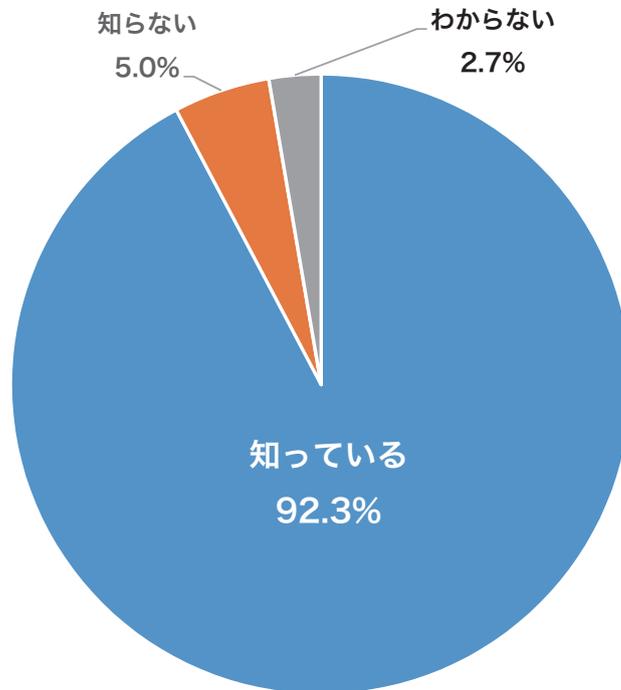
【質問2】 弘前大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



■ 教員以外の職員

選択肢	回答数	割合
知っている	239	92.3%
知らない	13	5.0%
わからない	7	2.7%
合計	259	

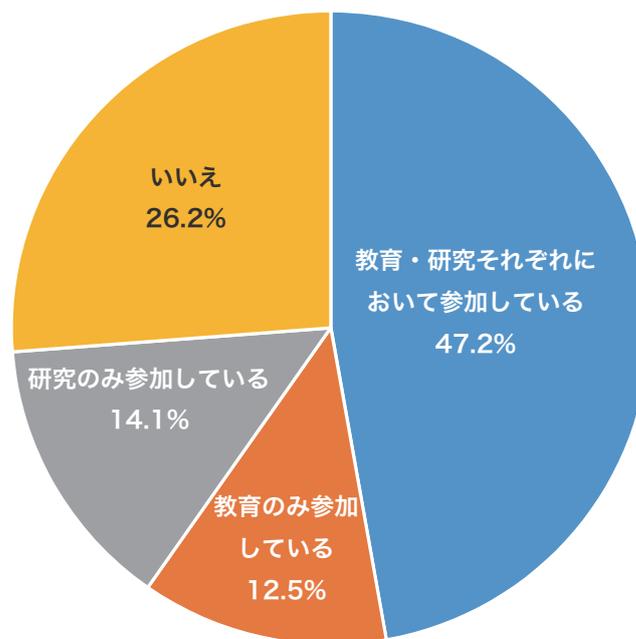
【質問2】 弘前大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



【質問3】 「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。
 (教員のみ回答)

選択肢	回答数	割合
教育・研究それぞれにおいて参加している	151	47.2%
教育のみ参加している	40	12.5%
研究のみ参加している	45	14.1%
いいえ	84	26.2%
合 計	320	

【質問3】 「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。



【2】 学生対象アンケート

1. 【本学学生・大学院生対象】弘前大学COC事業に関するアンケートについて 回答結果

【実施期間】 平成27年4月10日(金)～平成27年4月23日(木)

【対 象】 弘前大学に在籍する学部生・大学院生 計6,967名

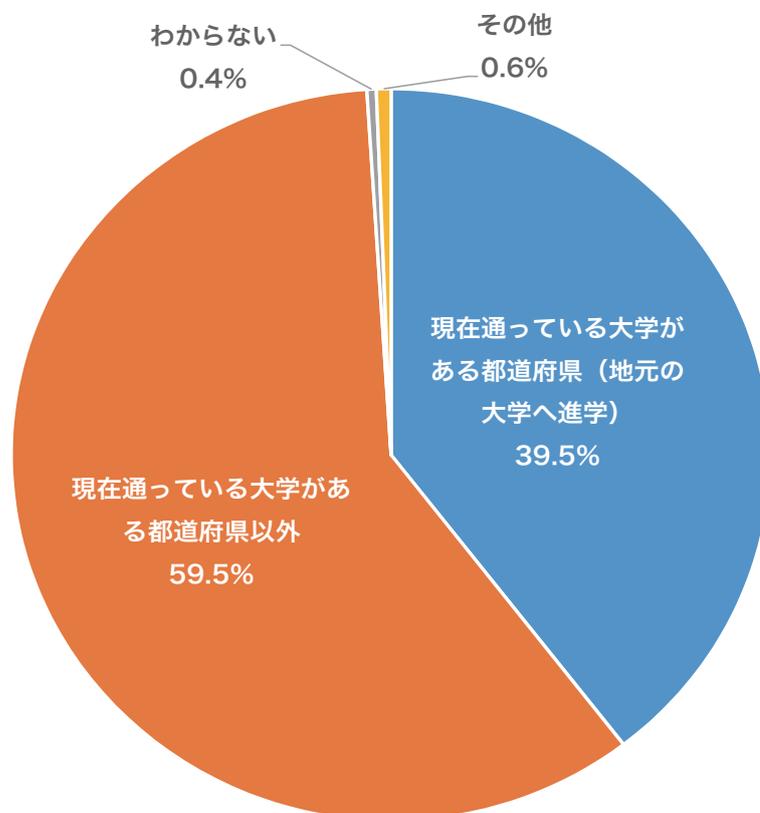
【回答者数】 2,415名 (全学部生・大学院生の34.7%)

【質問1】 あなたの出身(出生地)について、当てはまるもの1つを選んでください。

(回答数 2,415名)

選択肢	回答数	割合
現在通っている大学がある都道府県 (地元の大学へ進学)	955	39.5%
現在通っている大学がある都道府県以外	1,435	59.5%
わからない	10	0.4%
その他	15	0.6%
合 計	2,415	

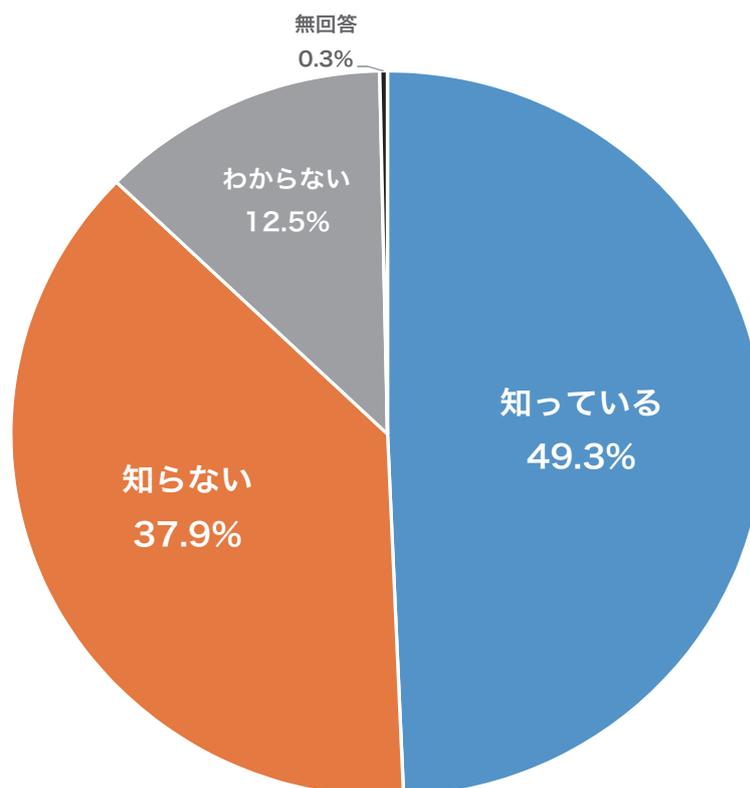
【質問1】 あなたの出身 (出生地) について、当てはまるもの1つを選んでください。



【質問2】 弘前大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。（回答数 2,407名 無回答8名）

選択肢	回答数	割合
知っている	1,191	49.3%
知らない	915	37.9%
わからない	301	12.5%
無回答	8	0.3%
合計	2,415	

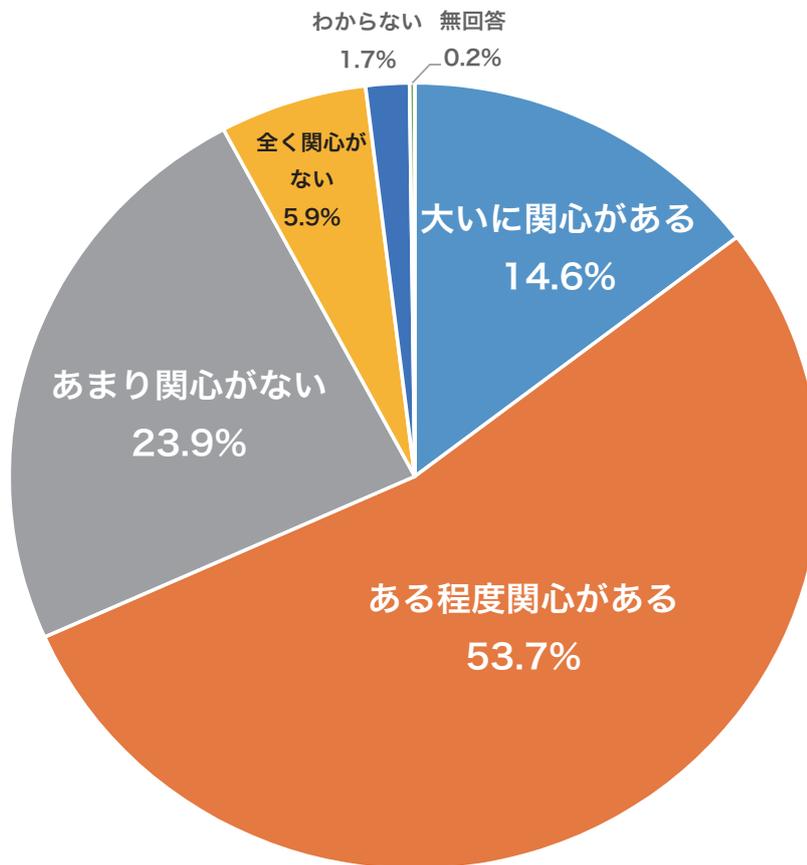
【質問2】 弘前大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



【質問3】 青森県の歴史や伝統、自然、経済等について関心がありますか？
 (回答数 2,410名 無回答5名)

選択肢	回答数	割合
大いに関心がある	353	14.6%
ある程度関心がある	1,298	53.7%
あまり関心がない	575	23.9%
全く関心がない	142	5.9%
わからない	42	1.7%
無回答	5	0.2%
合計	2,415	

【質問3】 青森県の歴史や伝統、自然、経済等について関心がありますか？

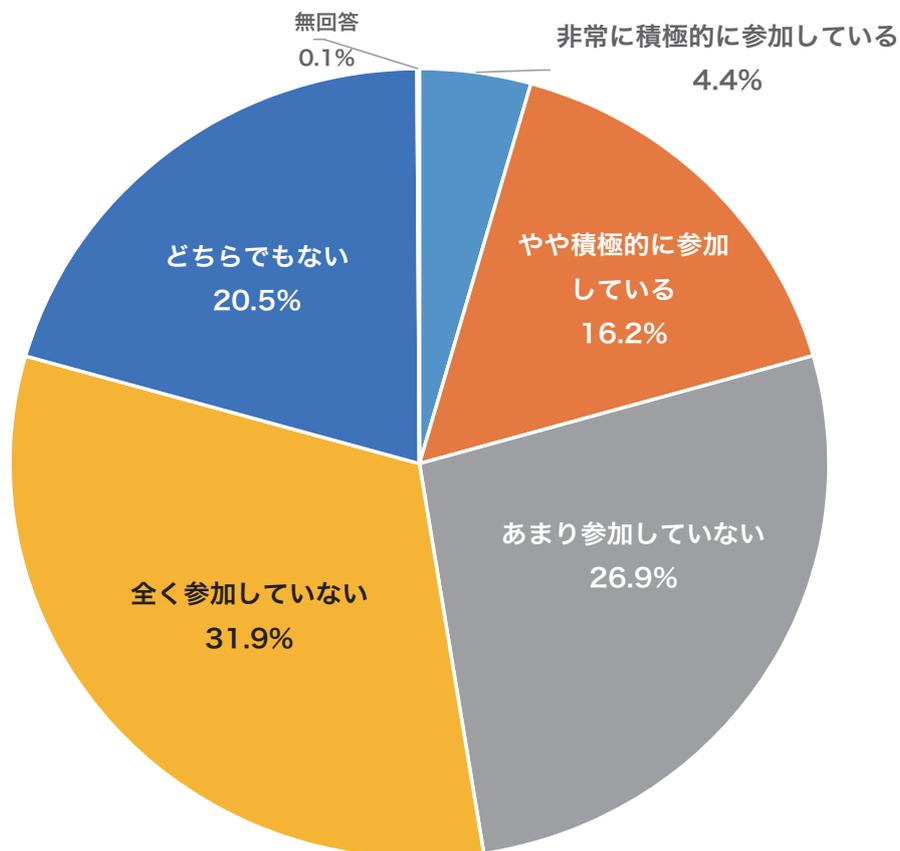


【質問4】 入学後、地域活動にどの程度積極的に参加していますか。

(回答数 2,411名 無回答4名)

選択肢	回答数	割合
非常に積極的に参加している	106	4.4%
やや積極的に参加している	391	16.2%
あまり参加していない	649	26.9%
全く参加していない	770	31.9%
どちらでもない	495	20.5%
無回答	4	0.1%
合計	2,415	

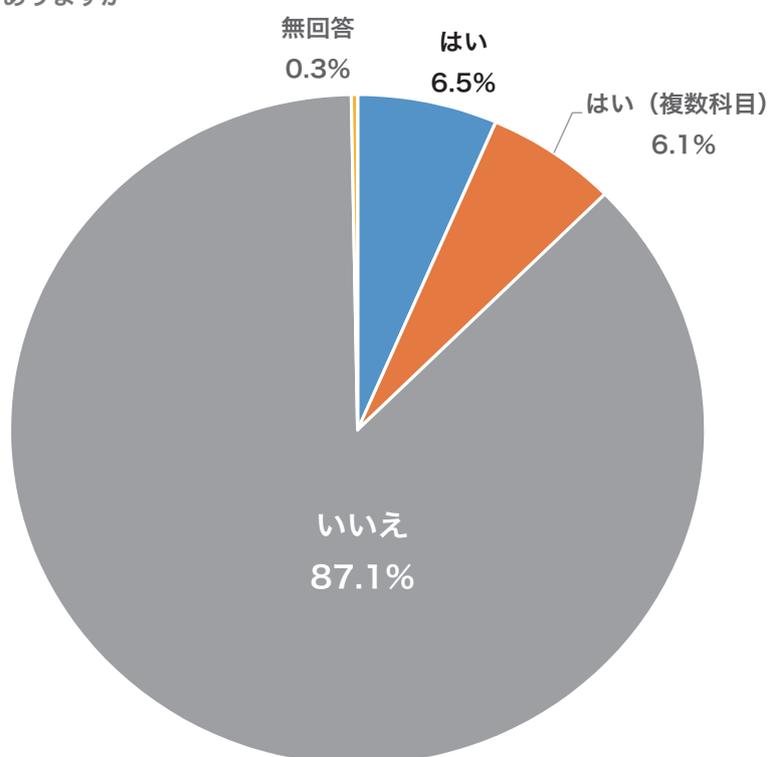
【質問4】 入学後、地域活動にどの程度積極的に参加していますか。



【質問5】 弘前大学が、「地域のための大学」として実施する授業科目を受講したことがありますか。
 (回答数 2,408名 無回答7名)

選択肢	回答数	割合
はい	157	6.5%
はい (複数科目)	147	6.1%
いいえ	2,104	87.1%
無回答	7	0.3%
合 計	2,415	

【質問5】 弘前大学が、「地域のための大学」として実施する授業科目を受講したことがありますか

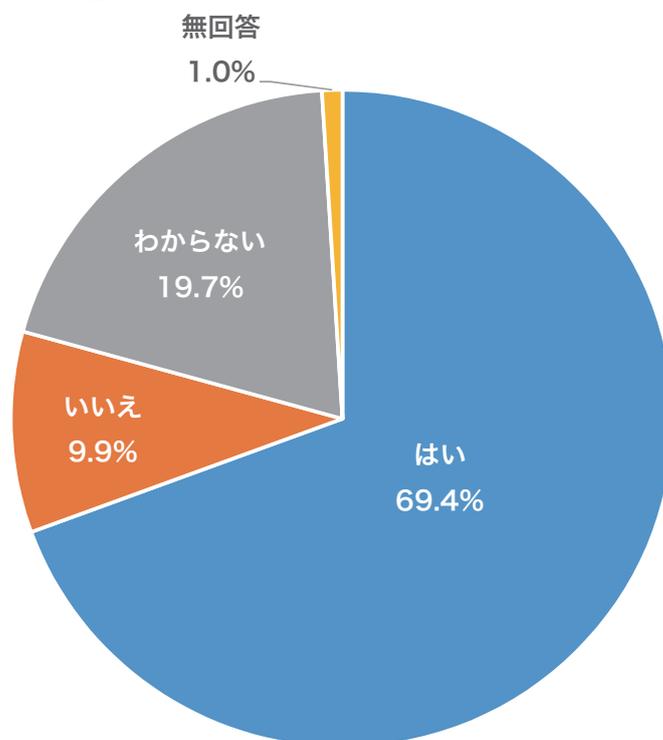


【質問6】 ※質問5で“はい”を選択した場合のみ回答

上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。（回答数 301名 無回答 3名）

選択肢	回答数	割合
はい	211	69.4%
いいえ	30	9.9%
わからない	60	19.7%
無回答	3	1.0%
合計	304	

【質問6】 上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。

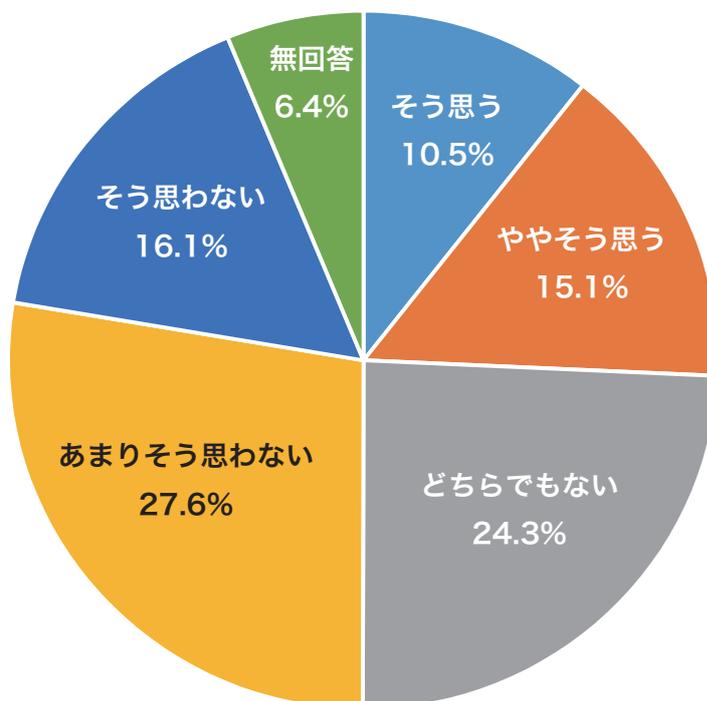


【質問7】 ※質問5で“はい”を選択した場合のみ回答

上記科目の受講が、青森県の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。（回答数 285名 無回答 19名）

選択肢	回答数	割合
そう思う	32	10.5%
ややそう思う	46	15.1%
どちらでもない	74	24.3%
あまりそう思わない	84	27.6%
そう思わない	49	16.1%
無回答	19	6.4%
合計	304	

【質問7】 上記科目の受講が、青森県の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。



【質問8】 ※質問5で“はい”を選択した場合のみ回答

その知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思いますか。

(自由記述 回答数 161名)

(抜粋)

- いろいろな人の意見を吸収して自分から他者に発信していけるようになりたい。
- 地元で就職したいのに、なぜ採用枠がこれほどまでに少ないのかを考えていきたい。
- もっと経済効果を生んで、最低賃金を引き上げられるような策を考えたいと思った。
- 学科でも農村振興については取り扱うのでそこに活かしていきたい。
- 学校現場から地域を元気にしていけるように知識を活かしていきたいと考える。
- 教員として次世代を担う子ども達に伝えていきたい。
- 県内での就職を考えており、かつ過疎地域への貢献を考えているので、身につけた知識を就活の際や地域行事の積極的な参加へとつなげていきたいです。
- 弘前大学に入学したからこそ学べたことだと思うので、それを就職活動を始めた今後の人生にいかしていきたい。
- 今まで知らなかった青森の特色を学べたので、今後の生活でもっと深く見ていきたい。
- 自分が大学生活を送った弘前の歴史、文化、自然などについて、教養として理解するとともに、県外の人々に「弘前」という町について多方面から具体的に説明できるようになればよい。
- 自分にゆかりがある地域のみでなく、青森県内外の地域の魅力を伝えられるような仕事がしたいと思うようになった。
- 自分の地元に戻って仕事に就いた時の、地域活性化に利用していきたい。
- 自分の暮らしてきた地域との違いとして理解し、個々人の多様なアイデンティティーの一つとして、人とのかかわりあいの中で活かしていきたい。
- 社会保険労務士として開業し、地域の人財育成を支援したい。
- 受講した科目で得た知識や能力は他の地域でも活かせるものか考え、農業などに応用できるものであれば積極的に活かしていきたいと思います。
- 将来の就職先が、青森県内であっても、他都道府県であっても、学んだことを理解し、それぞれの地域に応用して、その地域のために活かしていきたいと思う。
- 将来、地方都市弘前とある程度に似ている地元を発展させるため、すごく有意義だと思う。
- 少子高齢化が進む青森県で、地域のために貢献したいと思う人たちの力になれるように業務を通して支援していきたい。
- 食生活について学んだので、自分の食生活を見直すきっかけにもなった。これからも、食生活を乱さずに日常生活を過ごしていきたいと思う。
- 生体の機械的特徴を理解したので、これを活かして医療機器の開発などに従事したいと思う。
- 青森について授業で学んだこと以外にも理解を深め、観光業に関わることがあれば積極的に知識を使いたい。
- 青森県が県全体で取り組んでいるような活動があれば、積極的な参加とまではいなくとも、ある程度関心を持ち、活動への理解を示せると思う。
- 青森県のよさを改めて実感することができ、青森県に少しでも貢献したい。
- 青森県の現状について触れることで、地元も魅力の発見とともに今後の課題を見つめる良い機会となった。